

米国・カナダ・オーストラリア 3カ国の豆類の生産見通し概況

●米国：2021年12月9日公表ほか USDA Crop Production ●

10月の農業気象概況（2021年11月9日公表）

度々の大雨により農作業の遅れが生じたにも関わらず、米国中西部の収穫作業は平年並みに近いが、平年並みに比べて早いペースで進められた。10月31日までに、米国全体のトウモロコシの収穫は74%が完了しており、最近5年間の平均の66%を上回った。ダイズの収穫は、中西部の北方の大部分の地域では10月末までに完了しており、米国全体でも10月末までに79%が完了した。中西部では、降雨の合間の乾燥した時期に温暖な気候に恵まれたことにより、収穫が促進された。中西部の多くの地域で、月別の平均気温が2.75℃以上、平年並みを上回った。

月別平均気温が平年並みを上回るのは、ロッキー山地の東側の地域では共通にみられた傾向であり、五大湖地域では、特に顕著（平年並みを2.75℃以上上回った）であった。これと対照的に米国西部では、平年並みより低温の傾向がみられ、特にカリフォルニア州から南西部にかけては、月別平均気温が平年並みを2.75℃以上下回った。

米国西部の荒れ模様の天候は10月24日から25日にかけて最高潮に達し、例年より早い嵐となって豪雨をもたらし、特にカリフォルニア州北部に影響を与えた。カリフォルニア州北部から大平原地域北部にかけての地域は、10月に複数の暴風雨に見舞われたことで、干ばつの影響から救われ、積雪による水分の貯えが得られた。西部のその他の地域の降水量の状況は様々であって、ロッキー山地北部とそれに続く大平原地域北部では平年並みに比べて乾燥した状態が続いた。10月に降水量が多かったにも関わらず、米国西部の放牧地及び牧草地の多い地域では、2022年春までは土壤水分含有率が回復しない恐れがある。10月31日までの時点で、カリフォルニア州からミネソタ州にかけての11の州の放牧地及び牧草地の少なくとも39%の作柄が「非常に悪い」から「悪い」状況にあると評価されており、特にモンタナ州では95%の作柄が「非常に悪い」から「悪い」状況にあると評価されている。

大平原地域では、部分的に乾燥状態が生じており、このことが冬作のコメギの発芽及び生育に悪影響を及ぼしているが、多くの地域で十分な降水量が得られている。10月の時点で乾燥状態が顕著な地域としては、モンタナ州の北部中央及び大平原地域北部からネブラスカ州南西部に至る地域が挙げられる。これと対照的に、著しく湿潤な天候により干ばつの影響が軽減された地域は、ワイオミング州、ノースダコタ州、サウスダコタ州及びモンタナ州南西部である。このような状況の下でも、10月末の時点で、テキサス州では冬作のコメギの46%の作柄が「非常に悪い」から「悪い」と評価されており、モンタナ州では44%、サウスダコタ州では31%、コロラド州では27%の作柄が「非常に悪い」から「悪い」と評価されている。

その他の地域については、米国南部で温暖な天候に恵まれ、乾燥状態が長く続いたことで、夏作の作物の成熟が進み、収穫も順調であった。前年度においては、南部の多くの地域で冷涼で湿潤な天候により作物の生育が遅れ、収穫が遅れた。10月31日までの時点で、南部の作物の多くについて、収穫の遅れが生じて、収穫が終了している比率が、綿花は45%（最近5年間の平均では48%）、落花生では67%（過去5年間の平均では74%）と平年並みに比べて遅れた。

11月2日までの5週間の間、干ばつ状態にある面積の割合は、米国干ばつ監視委員会（the United States Drought Monitor）によれば、引き続き46%から48%となっており、ほぼ変化していない。米国北部中央では10月に大幅に改善し、西部でも若干の変化が見られたが、米国南部中央で干ばつが広がったことで相殺された。米国全体では、2020年9月に40%となつて以降、干ばつ状態にある面積は1年以上にわたって増加してきている。21世紀に入ってから、1年以上にわたって40%以上の干ばつ状態が続いたことが記録されたのは、2002年3月12日、2003年6月3日、2012年6月19日及び2013年10月1日となっている。

表1 米国の乾燥インゲンマメ等の生産見通し

作物名	作付面積 (ha)		収穫面積 (ha)		単収 (t/ha)		生産量 (t)	
	2020	2021	2020	2021	2020	2021	2020	2021
ヒヨコマメ	109,190	152,280	106,390	148,760	1.82	0.92	193,820	137,570
乾燥食用インゲンマメ	704,160	566,160	678,460	542,690	2.2	1.89	1,495,180	1,025,530
乾燥食用エンドウ	404,290	392,550	393,760	371,910	2.5	1.48	985,790	551,110
レンズマメ	213,680	287,730	208,010	269,930	1.62	0.86	336,160	230,880

生産量：米国農務省(USDA)、農業統計委員会、米国農業統計局(NASS)から、2021年12月9日付けで公表。

米国の2020作物年度及び2021作物年度(推定)の作物別作付面積、収穫面積、単収及び生産量。

データは、入手可能な最新の報告書または前回の報告書の推定データによる。現行年度(2021作物年度)の推定である。

概観

本報告書は、カナダ農業食料省の2020/21作物年度の生産見通し報告書（すべての作物について収穫が終了している）を更新し、2021/22作物年度の見通しを提供するものである。大部分の作物について、カナダの作物年度は8月1日に始まり、7月31日に終わる。トウモロコシ及びダイズについては、作物年度は9月1日から8月31日までである。ここに示す世界及びカナダの穀物市場に関する経済的見通しは、燃料価格の上昇や肥料及び輸送に関する経費の増加といった、COVID-19（新型コロナウイルス感染症）に起因する国内及び国際的事情の不確実性の影響を受ける可能性がある。

乾燥エンドウ

2020/21作物年度のカナダの生産量は、前年度に比べて45%減少して2011/12作物年度以降最低の250万tとなる見込みである。これは、主として干ばつの影響で単収が低かったことによるもので、特にカナダ全体のエンドウ生産量の52%を占めるサスカチュワン州でこの影響が顕著だった。黄色乾燥エンドウの生産量は、前作物年度に比べて減少して200万tとなる見込みであり、緑色乾燥エンドウ生産量は40万tまで減少する見込みである。その他の各種銘柄の乾燥エンドウ生産量の合計は、増加して22万tとなる見込みである。期初在庫量が増加したことから、供給量は前作物年度と比べて37%の減少に留まり、310万tとなる見込みである。輸出量は大幅に減少して230万tとなる見込みである。2021年8月から9月までの時点では、中国及び米国がカナダの輸出先の上位2位までを占めている。供給量が減少したことにより、期末在庫量は大幅に減少するものと見込まれている。2021/22作物年度の前作物年度に比べて76%上昇して過去最高記録の600ドル/tとなる見込みである。

10月中では、サスカチュワン州の黄色乾燥エンドウの生産者価格は55ドル/t上昇し、緑色乾燥エンドウの生産者価格は10ドル/t上昇した。現時点での作物指標によれば、カナダ産第1等級及び第2等級の乾燥エンドウ供給量が供給量全体に占める割合は、前作物年度に比べて低下する見込みである。このこととカナダの乾燥エンドウ生産量の大幅な減少により、2021/22作物年度

のカナダ産第1等級及び第2等級の乾燥エンドウ供給量は減少する見込みである。前年度の同時期には緑色乾燥エンドウの価格が黄色乾燥エンドウの価格を5ドル/t上回っていたが、2021/22作物年度の現時点までのところでは、緑色乾燥エンドウの価格が黄色乾燥エンドウの価格を下回っている。

レンズマメ

2021/22作物年度の生産量は、100万t以上減少して180万t（前作物年度に比べて37%減）となる見込みであるが、これはカナダ西部での干ばつの影響による単収の低下によるものである。赤色レンズマメの生産量は、前年度に比べて大幅に減少して130万tとなり、大粒緑色レンズマメの生産量は、前年度に比べて減少して30万tをわずかに上回る値となる見込みである。その他のレンズマメ全品種の生産量は、前年度に比べて減少して20万tを下回る見込みである。

しかし、期初在庫量が多かったことから、総供給量の減少率は28%に留まる見込みである。輸出量は190万tとなる見込みである。現時点では、インド、トルコ及びアラブ首長国連邦が輸出市場の上位を占めている。総供給量が少ないことから、国内総利用量は限られたものとなる見込みである。期末在庫量は減少して5万tとなる見込みである。全般的に平均価格は、2020/21作物年度の水準に比べて67%上昇して、過去最高記録の1,080ドル/tとなる見込みであり、これは、主として等級分布が平年並みを上回っていることによる。

10月中のサスカチュワン州の大粒緑色レンズマメ及び赤色レンズマメの生産者価格は、前月と変わりがなかった。これは主として輸出需要が平年並みを下回っていることによる。前年度に比べて、2021/22作物年度は、第1等級及び第2等級のカナダ産レンズマメ総供給量が減少する見込みである。現時点までのところ、大粒緑色レンズマメの価格は、赤色レンズマメの価格を280ドル/t上回っているが、2020/21作物年度には、赤色レンズマメの価格を135ドル/t上回っていた。

乾燥インゲンマメ

2021/22作物年度の前年度生産量は、28%減少して35万2,000tとなる見込みである。このうち10万3,000tがホワイト・ビーンであり、24万9,000tがカラー・ビーンである。オンタリオ州及びマニトバ州の前年度生産量は減少したが、こ

れは単収が低下したことによるものである。アルバータ州では、カラード・ビーン生産量が増加したが、これは作付面積が増加したことによるものである。期初在庫量が増加したことから、総供給量の減少は5%に留まる見込みである。

輸出量は、前年度に比べてわずかに増加する見込みである。8月及び9月のデータによれば、EU諸国及び米国が輸出市場の上位を占めており、アンゴラ及びメキシコへは、輸出が減少している。総供給量が低水準であったことと需要が強かったことから、期末在庫量は減少する見込みである。北米大陸での総供給量が減少したことから、カナダ産乾燥インゲンマメの平均価格は、27%上昇して過去最高記録の1,180ドル/tとなる見込みである。

ヒヨコマメ

2021/22作物年度の生産量は、前年度に比べて70%減少してして6万4,000tとなる見込みであるが、これは作付面積の減少及び単収の低下によるものである。カブリー種及びデシ種の両方の生産量が前年度に比べて減少する見込みである。期初在庫量が多かったことから、総供給量は24%の減少となる見込みである。輸出量は、12万tとなる見込みであり、米国及びトルコが輸出市場の上位を占めている。主として総供給量が減少したことにより、期末在庫量は減少する見込みである。平均価格は、66%上昇して過去最高記録の1,065ドル/tとなる見込みであるが、これはカナダ産ヒヨコマメの品質が平年並みを下回る見込みであるにも関わらず、世界の生産量が減少する見込みであることによるものである。

表2 カナダの豆類作付面積・収穫面積、単収その他

	収穫面積 (1,000ha)	単収 (kg/10a)	生産量 (1,000t)	輸入量 (1,000t)	総供給量 (1,000t)	輸出量 (1,000t)	国内総利用量 (1,000t)	在庫量 (1,000t)	生産者価格 (ドル/t)
乾燥エンドウ									
2019-2020	1,711	2.48	4,237	82	4,631	3,709	689	233	265
2020-2021[f]	1,685	2.73	4,594	83	4,910	3,580	851	479	340
2021-2022[f]	1,508	1.68	2,527	73	3,078	2,300	728	50	
レンズマメ									
2019-2020	1,489	1.60	2,382	90	3,327	2,734	384	209	485
2020-2021[f]	1,705	1.68	2,868	114	3,190	2,326	459	406	645
2021-2022[f]	1,714	1.05	1,802	75	2,283	1,900	333	50	

	収穫面積 (1,000ha)	単収 (kg/10a)	生産量 (1,000t)	輸入量 (1,000t)	総供給量 (1,000t)	輸出量 (1,000t)	国内総利用量 (1,000t)	在庫量 (1,000t)	生産者価格 (ドル/t)
乾燥インゲンマメ									
2019-2020	150	2.11	317	75	442	361	56	25	985
2020-2021[f]	183	2.68	490	63	578	395	63	120	930
2021-2022[f]	168	2.09	352	75	547	400	62	85	1,180
ヒヨコマメ									
2019-2020	156	1.61	252	48	440	105	85	250	490
2020-2021[f]	120	1.79	214	42	506	150	77	280	640
2021-2022[f]	72	0.89	64	40	384	120	79	185	1,065

資料：カナダ農業食料省;Outlook for Principal Field Crops 2021.11.19 公表

(注) 1) 作物年度は8月から7月である。

2) 2020-2021 (f) と 2021-2022 (f) は、AAFC (カナダ農業食料省) 及び STC (カナダ統計局) の予測値である。

3) 輸出入には加工品の量は含まれない。

4) 国内総利用量は、食用、工業用、飼料用、種子用及び損耗からなり、差し引きで計算されている。

5) 生産者価格は、全ての品目、等級、市場の平均価格でFOB価格である。

● オーストラリア：2021年12月公表 ABARES Australian crop report ●

概観

2021/22作物年度のオーストラリアの冬作物の総生産量は、春季を通して良好な生育条件に恵まれたことから、最高記録を更新する値となった。全国的に冬作の後半に作柄が非常に良好な状態にあり、春季を通じて十分な降水量及び温暖な気温に恵まれて作柄の見通しがさらに上方修正された。東部の諸州では、春季の始めを通して十分な降水量が得られ、穀物の実入りが良く、単収の向上が期待できる状況となった。南オーストラリア州及び西オーストラリア州では、大部分の生産地域で、10月に時機に応じた降水量及び温暖な気温に恵まれ、単収の向上が見込める状況となったことで、9月の乾燥及び霜による被害がおおむね埋め合わせられる結果となった。

2021/22作物年度のオーストラリア全体の冬作の総生産量は、前年度に比べて5%増加して5,840万tとなる見込みである。西オーストラリア州の総生産量は過去最高記録となる見込みであり、ニューサウスウェールズ州及びクィーンズランド州では総生産量が史上第2位となる見込みである。ヴィクトリア州及び南オーストラリア州の総生産量は、平年並みを大幅に上回る見込みである。ABARES（オーストラリア農業資源経済局）が2021年9月に公表したオーストラリア作物生産状況報告書の生産量見通しのデータは、12月の時点での見通しにおいて、6.6%上向きに修正された。

主要な冬作物については、コムギの生産量が過去最高記録だった

2020/21作物年度に比べて3%の増加で、2021/22作物年度には最高記録を更新する3,440万tとなる見込みである。オオムギの生産量は、前年度に比べてわずかに増加して史上第2位の1,330万tの見込みとなったが、この値は最高記録である2016/17作物年度を2%下回っている。ナタネの生産量は、過去最高記録であった2020/21作物年度に比べて27%増加して570万tとなり、最高記録を更新する見込みである。

表3 オーストラリアの豆類の作付面積及び生産量

作物名	作付面積(1,000ha)			生産量(1,000t)		
	2019-20	2020-21 s	2021-22 f	2019-20	2020-21 s	2021-22 f
ヒヨコマメ	309	508	633	235	733	1,004
ファバビーン(ソラマメ)	215	269	254	313	510	520
フィールドピー	248	209	192	211	294	261
レンズマメ	412	368	390	526	634	656
ルーピン	665	496	497	591	774	808

f : ABARESによる予測。

s : ABARESによる推定。

注：作物年度は4月1日から3月31日までの12ヵ月間に作付けされた作物を対象としている。首都圏及びオーストラリア北部の数値をオーストラリア全体の生産量に含めるかどうかによって、各表の間に若干の差異が生じる場合がある。作付面積には、収穫に至った面積、途中で飼料用に転用された面積及び収穫を断念した面積が含まれる。

資料：ABARES(オーストラリア農業資源経済局); ABS(オーストラリア統計局);Pulse Australia。

表4 オーストラリアの州別生産量

	ニューサウスウェールズ州		ヴィクトリア州		クイーンズランド州		サウスオーストラリア州		ウエスタンオーストラリア州		タスマニア州	
	作付面積	生産量	作付面積	生産量	作付面積	生産量	作付面積	生産量	作付面積	生産量	作付面積	生産量
	(1,000ha)	(1,000t)	(1,000ha)	(1,000t)	(1,000ha)	(1,000t)	(1,000ha)	(1,000t)	(1,000ha)	(1,000t)	(1,000ha)	(1,000t)
ヒヨコマメ												
2019-20	66	24	38	26	171	162	21	18	13	5	0	0
2020-21 s	220	374	45	68	230	275	8	11	5	5	0	0
2021-22 f	280	420	30	40	310	527	8	11	5	6	0	0
2020/21年度までの5年間の平均	255	324	42	45	325	434	22	24	8	8	0	0
フィールドピー												
2019-20	28	18	69	58	0	0	106	90	46	44	0	0
2020-21 s	34	61	55	83	0	0	85	105	35	45	0	0
2021-22 f	37	45	40	71	0	0	80	85	35	60	0	0
2020/21年度までの5年間の平均	46	46	68	75	0	0	93	112	34	46	0	0
レンズマメ												
2019-20	5	3	226	268	0	0	161	234	21	21	0	0
2020-21 s	7	10	180	306	0	0	170	300	11	18	0	0
2021-22 f	7	10	170	275	1	1	200	350	12	20	0	0
2020/21年度までの5年間の平均	5	6	187	233	0	0	172	298	11	12	0	0

	ニューサウスウェールズ州		ヴィクトリア州		クイーンズランド州		サウスオーストラリア州		ウエスタンオーストラリア州		タスマニア州	
	作付面積	生産量	作付面積	生産量	作付面積	生産量	作付面積	生産量	作付面積	生産量	作付面積	生産量
	(1,000ha)	(1,000t)	(1,000ha)	(1,000t)	(1,000ha)	(1,000t)	(1,000ha)	(1,000t)	(1,000ha)	(1,000t)	(1,000ha)	(1,000t)
ルーピン												
2019-20	43	24	43	39	0	0	45	41	533	485	0	2
2020-21 s	68	130	38	44	0	0	40	50	350	550	0	1
2021-22 f	68	122	38	39	1	1	40	45	350	600	0	0
2020/21年度までの5年間の平均	63	58	43	44	0	0	53	62	431	617	0	1

f ABARESによる予測。s ABARESによる推定。

注：作付面積が500ha未満である場合、または生産量が500t未満である場合には、四捨五入により作付面積または生産量の推定値あるいは予測値がゼロと表示される場合がある。作付面積には、収穫に至った面積、途中で飼料用に転用された面積及び収穫を断念した面積が含まれる。

資料：ABARES(オーストラリア農業資源経済局); ABS(オーストラリア統計局); Pulse Australia。

表5 オーストラリアの豆類の供給及び利用状況

作物名	2015-16	2016-17	2017-18	2018-19	2019-20	2020-21 s
	(1,000t)	(1,000t)	(1,000t)	(1,000t)	(1,000t)	(1,000t)
生産量						
ルーピン	652	1031	714	799	591	774
フィールドピー	205	415	317	160	210	294
ヒヨコマメ	875	2004	998	205	235	733
見かけ上の国内利用量 ^a						
ルーピン	398	637	258	540	376	332
フィールドピー	72	148	189	87	165	172
ヒヨコマメ	1	1	1	1	1	0
輸出量						
ルーピン	254	395	456	259	215	442
フィールドピー	134	268	130	75	48	123
ヒヨコマメ	1145	2293	724	372	349	898

a：生産量に輸入量を加えた値から輸出量を引き、さらに在庫量に明らかな変化が認められた場合には、その値を引いて算出した値。
注：生産量、利用量、輸出入量及び在庫量は、市場年度に基づいている。豆類の市場年度は、11月から10月まで、輸出品のデータは、市場年度に基づく輸出期間を参照したものであって、他の資料で公表されている財務年度に基づく輸出量とは一致しない場合がある。500t未満の場合には、ゼロと表示する。オーストラリア統計局の農業データの収集の範囲の変更により、2014/15年度までは推定生産額5,000ドル以上の生産者(EVAO)を対象として生産量を集計していたが、2015/16年度以降は40,000ドル以上のEVAOを対象としている。
資料：ABARES(オーストラリア農業資源経済局); ABS(オーストラリア統計局) Pulse Australia。

表6 豆類価格の推移(豪ドル/t)

	2020				2021		
	第1 四半期	第2 四半期	第3 四半期	第4 四半期	第1 四半期	第2 四半期	第3 四半期
国内価格：ルーピン(クイナナ調べ)	529	552	497	386	393	362	350
国内価格：ヒヨコマメ(メルボルン調べ)	856	736	628	583	616	679	616
国内価格：フィールドピー(メルボルン調べ)	527	520	449	394	406	415	420
輸出価格：ヒヨコマメ ^b	856	867	771	693	692	751	759
輸出価格：フィールドピー ^b	663	665	650	515	481	493	279

a：単位重量当たりの輸出価格は、米ドルで表記された日別価格の平均を、日別為替レートの四半期ごとの平均値に基づいて豪ドルに換算したものである。

b：単位重量当たりの輸出価格は、その四半期に輸出された穀物の平均価格を反映したものであって、現在の市場価格とは異なる。ここに示した価格は、オーストラリア統計局が報告したオーストラリアからの輸出品の単位重量当たりの輸出価格の平均(F.O.B.本船渡し)である。輸出業者による価格の取り決めの時点と、実際に輸出が行われる時点との間には、大きな時間差が生じる場合がある。
注：第1四半期は1月から3月まで、第2四半期は4月から6月まで、第3四半期は7月から9月まで、第4四半期は10月から12月まで。価格の算出に当たっては、商品サービス税(GST)を除外している。

資料：ABARES(オーストラリア農業資源経済局); ABS(オーストラリア統計局); CMEグループ; IGC(国際穀物審議会); Jumbuk AG; USDA(米国農務省)。